

G1安田記念2023「全頭診断書」

今年は雨の影響が残る路盤状態での開催で、ミドルペース以上で流れる**持続～消耗戦ラップ**を前提に診断を進めて参ります。

※使用上の注意

万一、天気予報が外れて、パンパンの良馬場になった時や、スローペースの**瞬発戦**となった場合には、この診断書は全くあてになりませんので、あらかじめご了承くださいませ(*_*)

持続ラップ～消耗戦ラップの安田記念では、馬格が重要なファクターになります。
馬体重が490キロ以上有る事が理想の条件。

血統面では、米国型血統により
持続力とスピードを強化された配合馬が有利になります。

・イルーシヴパンサー

父：**ハーツクライ**(Tサンデー系)

父母父：**トニービン**(欧グレイソヴリン系)

母父：**キングカメハメハ**(欧キングマンボ系)

祖母父：**ストームキャット**(米ストームバード系)

曾祖母父：**欧エタン**系(ネイティヴダンサー系)

ミドルペース(**ラスト4F減速0.1秒**)の東京新聞杯で負かした
ファイナルージュは、その次走G1ヴィクトリアマイルで2着。
G1で通用する能力の片鱗を感じさせる勝利で、時計的にも
基準タイムを0秒4も下回る優秀なものでした。

中京開催のG3京都金杯(ミドルハイ/**ラスト4F減速0.3秒**)でも
基準タイムを0秒2下回るタイムで優勝しております。

ハーツクライ産駒には、持続戦を好む産駒が多く、
本馬の場合は、祖母がストームキャットの直仔であり、
そこから持続戦への適性と、スピード能力を強化
されているのだと判断します。

昨年の安田記念では、1人気に支持されながらも
スローペースの瞬発戦(**ラスト4F加速0秒6**)が
合わなかった事に加え、出負けして最後方からの
競馬になった事が敗因です。

3走前の関屋記念もドスロー瞬発戦で11着惨敗。
前走の中山記念は小回りの非根幹距離で適性外だった上に
直線で前が詰まって追出しが遅れる不利。

敗戦には、常に説明がつくタイプで、
自分の好みの条件であれば、キッチリと結果を出しています。

血統評価:B

ラップ適性:A

兩馬場適性:こなす

相対指数:B

騎手評価:C

厩舎評価:B

前走馬体重:484キロ

総合評価:B

・インダストリア(除外対象)

父:リオンディーズ(欧キングマンボ系)

父母父:スペシャルウィーク(Tサンデー系)

母父:ハーツクライ(Tサンデー系)

祖母父:アレミロード(欧リポー系)

曾祖母ベルベットサッシュはサッカーボーイの全妹で
ステイゴールドの母ゴールデンサッシュの全姉。
母の半兄バランスオブゲームは安田記念3着馬。

半兄のケイデンスコールはG1NHKマイル(持続戦)2着馬で、
消耗戦のG2マイラーズカップを完勝しております。

基本的には、中山など「非主流条件」に強い印象の
牝系ファミリー出身馬ですが、狂気の血リボーを持つ
意外性には気を付けたいところ。

血統評価:注

ラップ適性:C

兩馬場適性:不明

相対指数:B

騎手評価:注

厩舎評価:D

前走馬体重:498キロ

総合評価:一応警戒

・ウインカーネリアン

父:スクリーンヒーロー(欧ロベルト系)

父母父:サンデーサイレンス

母父:マイネルラヴ(米ミスプロ系)

祖母父:カドウジェネル(英ハイペリオン系)

曾祖母父:シャーリーハイツ(欧ネヴァーヴェンド系)

母父マイネルラヴはスプリンターズステークス優勝馬で、
スピードと持続力の強化血統に分類されます。

祖母父カドウジェネルは、タフな英国競馬のスプリントG1で2勝。

曾祖母父は道悪適性を強化する欧ネヴァーヴェンド系。

父のスクリーンヒーローはG1ジャパンカップで優勝した
中距離タイプの競走馬でしたが、母系の短距離適性の

影響を受けて、本馬は1600m～1800mに適性があります。

前走はドバイのダートで参考外。

2走前の東京新聞杯は、ハイペース消耗戦(ラスト4F減速0秒8)
を自ら演出し逃げ切り勝ちを収めました。

今回も鞍上は三浦殿ですので、同じような競馬をする
可能性が十分にあり、今年の安田記念が瞬発戦にならないと
判断する理由のひとつです。

安田記念の「史上最多G1馬出走」となりそうな今年は
楽な競馬にはならない事は百も承知ながら…

この馬は、勝つときは基準タイムを下回る
優秀な時計で勝ってきており、雨馬場に適性があれば
高レベルG1のここでも後続の脚を消耗させる競馬をする事で
前残りの可能性は十分にあると考えます。

血統評価:B

ラップ適性:A

雨馬場適性:血統上はA

相対指数:B

騎手評価:C

厩舎評価:C

前走馬体重:518キロ

総合評価:B

・カフェファラオ

父:アメリカンファラオ(米ファピアノ系/ミスプロ系)

父母父:米ストームバード系

母父:モアザンレディ(米ヘイロー系)

祖母父:ミスワキ(欧ミスプロ系)

父アメリカンファラオの産駒で、芝レースを勝ったのは牝馬のみ。

牡馬はダート馬に出ると言う傾向がハッキリと出ております。

母父モアザンレディは、米国のダート1400G1馬。

祖母父ミスワキは、仏国の1400G1勝ち馬。

母系からスピードと持続力は強化されていますが、父の特性から、本馬はダート1600m以下が最適条件なのだろうと解釈しております。

ゆえに、ここでは評価対象外とします。

・ガイアフォース

父:キタサンブラック(Tサンデー系)

父母父:サクラバクシンオー(欧プリンスリーギフト系)

母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

祖母父:ダンスインザダーク(Tサンデー系)

曾祖母父:ノーザンテースト(欧ND系)

ノーザンテーストの5×4クロスを保持

サンデーサイレンスの3×4クロスを保持

初めてのマイル戦となった、前走のマイラーズカップ(ミドルハイ持続戦/ラスト4F減速0秒3)でシュネルマイスターと同タイム2着に好走しました。

母父クロフネから、高速馬場適性と持続力を、ノーザンテーストのクロスにより底力を強化されており、消耗戦にも耐えられるラップ適性を持っております。

問題は雨馬場がどうか？

JRA発表の馬場状態としては、稍重と重馬場で好走しておりますが、その時は路盤がしっかりしており時計面での馬場状態は軽い馬場でのものでした。

今回がどの程度の馬場になるかは予想できませんが、馬が走ると土の塊が飛び交うような「掘れる馬場」に

なった場合、どうなるかはやってみないと・・・です。

ただ、血統の字面としては、
タフな馬場でもこなせる可能性は十分にあります。

不安材料としては、前走が初めての距離への短縮で
好走しているの、今回同距離で反動が出るかも知れない点です。

血統評価：B

ラップ適性：A

雨馬場適性：血統上はB

相対指数：C

騎手評価：C

厩舎評価：B

前走馬体重：486キロ

総合評価：B

・シャンパンカラー

父：ドウラメンテ(欧キングマンボ系)

父母父：サンデーサイレンス

母父：レックレスアバンドン(欧ダンチヒ系)

祖母父：テイルオブザキャット(米ストームバード系)

母父レックレスアバンドンは、英仏両国の1200G1で
優勝したスプリンターで、英国のタフな雨馬場で勝利しております。

前走のNKHマイル時は、瞬発戦に向く配合と評価しましたが
雨の中のレースで、掘れる馬場の持続戦でも勝ち切ってしまいました。

ただ、本馬自身は出遅れが幸いして、瞬発戦のレースをしており、
馬場も「超外枠有利・超差し有利」で恵まれた感は否定できません。

とは言え、母父譲りの道悪巧者であると思われまし、
前走同様に馬場傾向に恵まれるようなら、斤量の恩恵も含め

勝ち切るイメージではないものの、馬券圏内はありそう。

血統評価:B

ラップ適性:C

雨馬場適性:A

相対指数:C

騎手評価:C

厩舎評価:C

前走馬体重:500キロ

総合評価:C

・シュネルマイスター

父:キングマン(欧ダンチヒ系)

父母父:ザミンダール(欧ミスプロ系)

母父:ソルジャーホロウ(独サドラーズ系)

祖母父:ハイエストオナー(欧グレイソヴリン系)

母は独国オークス馬

ドイツ牝系なので、直線が長く広いコースが得意で、ハイペースの持続戦でもメンバー上位の上りを繰り出せる点は、血統の字面通りの印象を受けます。

ただ、血統イメージと一致しないのは
柔らかい馬場は苦手だという事。

この点については鞍上のルメール殿が
レース後のコメントとして語っております。

マイルチャンピオンシップ5着時のコメント

「軟らかい馬場で早い反応ができませんでした」

マイラーズカップ優勝時のコメント

「馬場がすごくきれいだったので彼の瞬発力を使うことができました」

実際に、この馬が連対したマイル戦は全て「軽い馬場」だった時であり、だからこそ海外では走れない日本の高速馬場がベストのタイプだと思われます。

距離短縮好走後の同距離ローテにも不安があります。

血統評価:C

ラップ適性:B

雨馬場適性:恐らくD

相対指数:C

騎手評価:A

厩舎評価:C

前走馬体重:490キロ

総合評価:C

・ジャックドール

父:モーリス(欧ロベルト系)

父母父:カーネギー(欧サドラーズ系)

母父:アンブライドルズソング(米ファピアノ系/ミスプロ系)

祖母父:シャディード(欧ニジンスキー系/ND系)

従兄弟のアルヴァータは豪州の1500mG1馬。

母の従兄弟ストーミングホームは英米両国の2000mG1を3勝。

国内でG1ホースは本馬のみの牝系ファミリーですが、海外G1で活躍した馬は多く存在する牝系の出身馬です。

ファミリーの距離適性は1500m~2000mで、欧州で活躍する馬が多いのが特徴。

本馬も、札幌記念(前傾ラップ消耗戦/ラスト4F減速0秒9)で、パンサラッサとの壮絶な叩き合いを制しているように、力の要る馬場での消耗戦に、優れた耐性を持っています。

今回は初めてのマイル戦になりますが、

父のモーリスが1勝2着1回と良績を残すレース。

また、調教師も鞍上のユタカさんも「マイルが良さそう」とお互いに「安田記念に使ったらどうかな？」と同じ相談を持ち掛けたそうで、厩舎は勝ちに行く意気込みです。

本馬は、母父に「東京向きのスピード超強化血統」であるアンブライドルズソングを持っており、東京マイルG1は血統的にもかなり適性が高そうです。

また、ヘイルトゥリーズン系種牡馬とアンブライドルズソングの配合は、芝の雨馬場適性も強化する傾向があり、不良馬場まで悪化するのはいくありませんが、稍重～重馬場では、良馬場よりも勝率・複勝率が上昇します。

不安材料としては、前半3Fタイムが35秒を切る流れとなった、昨年大阪杯、天皇賞秋では掲示板を確保するのがやっとだったと言う成績に終わっている点でしょう。

そこを今の充実度と距離短縮で補えるかどうか？
補いが見つくようなら、アッサリがあっても不思議ではありません。

血統評価：A

ラップ適性：A

雨馬場適性：血統上はB

相対指数：A

騎手評価：C

厩舎評価：B

前走馬体重：490キロ

総合評価：B

・セリフォス

父：ダイワメジャー(Pサンデー系)

父母父：ノーザンテースト(欧ND系)

母父:ルアーヴル(欧ブラッシンググループ系)

祖母父:フリーダムクライ(欧ヌレイエフ系/ND系)

父ダイワメジャーは安田記念の他、
マイルチャンピオンシップ連覇を含むG1を5勝。
母父ノーザンテーストから受けた底力を発揮し、
持続戦を先行して押し切るタイプの競走馬でした。

母父ルアーヴルは仏国のマイルG1
2000ギニーの2着馬で仏ダービー馬でもあります。

祖母父フリーダムクライは、仏国2100mG1馬で、
その父ソヴィエトスターは、仏国の1200~1600G1を
5勝したマイラーズプリンターでした。

本馬は母系の欧州指向が強く影響しているようで、
軽い高速馬場よりも、少し軽め程度の馬場が合っています。

シュネルマイスターが力を出せない馬場だった、
去年のマイルチャンピオンシップで優勝したのも
母系の影響であったように思います。

両馬場がどうかは未経験のため不明ですが、
パワータイプのヌレイエフ系を祖母父に持つ点では
走れても驚く事ではないかと考えます。

この馬の弱点は「前傾ラップ」で力を発揮出来ないところ。

想定しているようなラップパターンになると、
直線で伸びあぐねるシーンも目に浮かびますので、
鞍上がレーン殿でなければ無印が妥当と考えますが・・・

彼が乗ると、何故か適性外の展開でも
馬券になる馬が多くて困りますなあ。

血統評価:C
ラップ適性:C
雨馬場適性:血統上はB
相対指数:A
騎手評価:A
厩舎評価:B
前走馬体重:486キロ
総合評価:C

・ソウルラッシュ

父:ルーラーシップ(欧キングマンボ系)
父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)
母父:マンハッタンカフェ(Tサンデー系)
祖母父:ストームキャット(米ストームバード系)
曾祖母父:カロ(欧グレイソヴリン系)

父も母父も「非主流条件」に強い血統で、
本馬もそれを受け継いで「瞬発力勝負」と
「高速馬場」を苦手としております。

注目すべきは、母エターナルブーケの
「マンハッタンカフェ×ストームキャット」と言う配合で、
これは2014年の不良馬場+消耗戦で10人気で3着に
激走したショウナンマイティと同じ配合なのですな。

昨年の安田記念は高速馬場で、レースの上り3Fが
33秒6という超瞬発力勝負となり13着に惨敗。

高速馬場でも、持続戦となった富士Sでは
セリフォスと差の無い2着に走れており、
マイルチャンピオンシップはおあつらえ向きの馬場でしたが
瞬発戦で3着ソダシと同タイムの4着と言う結果でした。

雨馬場で消耗戦となった22年のマイラーズカップは

前有利馬場を後方から追込んで完勝しております。

それ以来、この馬が得意な条件には一度も恵まれておらず、
想定通りの馬場とラップパターンが実現すれば、
世間様をあっと言わせるシーンも。

個人的に不安なのは、今回プリンカーを外す事。

血統評価:C

ラップ適性:A

雨馬場適性:A

相対指数:B

騎手評価:B

厩舎評価:D

前走馬体重:512キロ

総合評価:B+

・ソダシ

父:クロフネ(米ヴァイスリージェント)

母父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

祖母父:サンデーサイレンス

クロフネの牝馬は、高速馬場適性を持つ産駒が多く、
雨馬場に適性がある産駒はほんの一握りです。

馬場状態に対する適性は、車と言えば
スリックタイヤかレインタイヤかというイメージで、
車はタイヤを履き替えられますが、馬の脚を
好感する事は出来ない為、高速馬場適性型の産駒は
大抵は雨馬場には弱く、その逆の場合、雨は走るけど
高速馬場は苦手というのが基本的なパターンになります。

ソダシの場合、芝の雨馬場は未経験ですが、
全妹のママコチャの場合は、高速馬場なら

重賞でもやれるのですが、それ以外の馬場では大きくパフォーマンスを下げています。

同じクロフネ産駒のアエロリットも東京の高速馬場では強い馬でしたが、雨馬場はからっきしでした。

東京マイルへの適性の高さは、今更語るまでもない実績を持っていますが、雨の影響が残る路盤になれば、牡馬の一線級が相手という事も含め危険な人気馬の1頭になりそうです。

ソダシは評価するまでもなく適性は高いので、各評価は割愛します。路盤が乾けば馬券に絡むと考えています。

・ソングライン

父:キズナ(ディープ系)

父母父:ストームキャット(米ストームバード系)

母父:シンポリクリスエス(欧ロベルト系)

祖母父:アグネスタキオン(Pサンデー系)

不良馬場のダービーを圧勝したロジュニヴァースや、英国の重馬場でも好走したディアドラを出したソニクの牝系は、基本的に雨馬場が上手で、重馬場で連対率が最も高くなるファミリーです。

本馬は左回りのマイル戦なら崩れないタイプで、物理的な不利があった22年のヴィクトリアマイル以外は全て馬券に絡んでおります。

特に1000m通過が「58秒台後半」以上掛かるペースなら牡馬を相手の安田記念でもシュネルマイスターを負かした女傑。

だからといって、持続戦に適性が無いわけではなく
NHKマイル(ハイペース**持続戦/ラスト4F減速0秒3**)でも
シュネルマイスターと同タイム2着に走っております。

これと言った、不安材料は見当たらないですが、
休み明け好走の反動(これまでは出た事がないですが)
くらいのものではないかと思えます。

血統評価:B

ラップ適性:B

雨馬場適性:A(牝系)

相対指数:A

騎手評価:B

厩舎評価:B

前走馬体重:488キロ

総合評価:B+

・ダノンスコーピオン

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

父母父:ストームキャット(米ストームバード系)

母父:スライゴベイ(米ノーザンダンサー系)

祖母父:インエクセス(米カロ系/グレイソヴリン系)

母父スライゴベイは米国の芝2400mG1ウイナー。

祖母父インエクセスは米国の中距離ダートG1を4勝。

この馬がG1で馬券に絡んだ2回は、いずれも消耗戦ラップで、
瞬発戦や持続ラップでは、力を出し切れないと言うのが
近走の成績不振の原因かも知れませんので、
消耗戦になるようであれば、警戒は必要だと考えます。

ただ、少し気になっているのは、

米国型血統を詰め込み過ぎたために、早熟馬で終わる可能性も
あるのではないかという事。

主戦の川田騎手が、昨年のマイルチャンピオンシップ11着の結果に対して残したコメントは以下のようなものでした。

「ここへきて体が成長しようとしているのか、バランスが変わっていました。」

そして、安田記念で川田騎手が離れた馬は複勝率12.5%と言う淋しい戦績に終わっております。

馬体も小柄で、安田記念向きと言うイメージは持てません。

血統評価:C+

ラップ適性:注(消耗戦)

雨馬場適性:不明

相対指数:D

騎手評価:C

厩舎評価:C

前走馬体重:464キロ

総合評価:D

・ドルチェモア

父:ルーラーシップ(欧キングマンボ系)

父母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

母父:デイーブインパクト

祖母父:ストームキャット(米ストームバード系)

母アユサンはミドルペース消耗戦(ラスト4F減速0秒7)の桜花賞勝ち馬ですが、その後は馬券に絡むことが無かった成長力に欠ける早熟馬でした。

牝系ファミリーも早熟の一族で、3歳春以降の古馬混合重賞で馬券に絡んだ馬は出ておりません。

本馬も3歳になってからは2歳戦での強さが嘘のような成績で、雨馬場がダメなのかも知れませんが、鞍上のレース後コメントに馬場を敗戦理由にされておらず、

ラップパターンも本馬が好むパターンでの凡走となれば、
いよいよ成長力に疑問が付いてしまいます。

血統評価:C

ラップ適性:B

雨馬場適性:不明

相対指数:D

騎手評価:D

厩舎評価:A+

前走馬体重:476キロ

総合評価:D

・ナミュール

父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

父母父:欧ネイティヴダンサー系

母父:ダイワメジャー(Pサンデー系)

祖母父:フレンチデピュティ(米ヴァイスリージェント)

桜花賞馬キョウエイマーチの牝系。

ハイペースの消耗戦(ラスト4F減速0秒9)の
東京新聞杯で勝ち馬と同タイム2着に好走しましたが、
本質的には中距離の瞬発戦に適性がありそう。

ダンチヒ・ダイワメジャー・フレンチデピュティと

持続力血統の集合体のような配合なので、
消耗戦にも対応は出来ますが、マイルのスペシャリストが
集まるG1レースでは、少々分が悪いのかも知れません。

また、キョウエイマーチの牝系は
クラシックで活躍するイメージで、古馬の牡牝混合G1で
活躍した馬は出ておりません。

小柄な牝馬には安田記念は過酷なのでは？

血統評価:C
ラップ適性:C
雨馬場適性:A(牝系)
相対指数:B
騎手評価:B
厩舎評価:C
前走馬体重:452キロキロ
総合評価:D

・ナランフレグ

父:ゴールドアリュール(Dサンデー系)
父母父:欧ヌレイエフ(ND系)
母父:ブライアンズタイム(欧ロベルト系)
祖母父:タマモクロス(欧グレイソヴリン系)

Dサンデー系のゴールドアリュール産駒が
芝のG1を勝ったのは、この馬のみと言う
イレギュラーな存在です。

持続力と言うよりは、持久力に特化した配合で、
瞬発戦となった昨年の安田記念は明らかに不向きな
流れのレースだったと思います。

1200m戦でも持続ラップでは結果を残せず
消耗戦で真価を発揮しているように、
雨の影響が残る路盤で消耗戦になれば、
ちょっと怖いかも知れません。

血統評価:イレギュラー
ラップ適性:A(消耗戦)
雨馬場適性:A
相対指数:C
騎手評価:E
厩舎評価:D+

前走馬体重:492キロ

総合評価:D

・マテンロウオリオン

父:ダイワメジャー(Pサンデー系)

父母父:ノーザンテースト

母父:キングカメハメハ(欧キングマンボ系)

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

オークス馬レディパステルの牝系。

血統構成からは、中途半端な持続戦よりも
消耗戦の方が合っていそうで、NHKマイル2着も
消耗戦でした。

近走では、3走前の東京新聞杯が
同じようなラップで、しかも内枠有利馬場の3枠。
それでも、6着止まりだった事を考えると、
よほど上積みがなければ、ここで好走出来る
目途は立たないのではないかと。

変わり身を見せるとすれば、
これまで経験していない雨馬場に高い適性が
あった場合ですが、牝系ファミリーで雨馬場の
重賞で馬券になった馬は出ておらず、
ダイワメジャー産駒も雨馬場では好走率が
ダウンする傾向があります。

血統評価:C

ラップ適性:C

雨馬場適性:血統上はC

相対指数:C

騎手評価:C

厩舎評価:D

前走馬体重:492キロ

総合評価:D

・メイケイエール

父:ミッキーアイル(ディープ系)

父母父:デインヒル(欧ダンチヒ系)

母父:ハービンジャー(欧ダンチヒ系)

祖母父:クロフネ(米ヴァイスリージェント系)

デインヒルの4×4クロスを保持。

ソダシと同じシラユキヒメ牝系。

父のミッキーアイルは、安田記念に2度挑戦して
2度とも2桁着順に敗れました。

ダンチヒの血をクロスで持つ事も、
米国型ノーザンダンサー系を母系に持つ事も
このレースでは有効な配合ですが・・・

父がサンデー系種牡馬の場合は
中距離以上のG1に実績がある種牡馬がベター。

何よりも、気性に問題を抱えているので、
まずはまともにレースが出来るかどうかでしょう。

テンションを上げない為に「最終追い切りなし」と言う
異色な仕上げになりますが、メイチ仕上げだったヴィクトリアマイルを
フレグモーネで回避しての中2週ですから、ここで強い調教は
必要ないでしょう。

むしろ、今回の調教パターンが結果につながる
可能性も無いとは断言できません。

しかし、前半3Fが34秒以下の速い流れでこそそのタイプなので、
ゲートが開いてから折り合いがつくかどうか？という事と、
G1では一度も馬券に絡んでいない事を考えますと、

あまり食指が動かないと言うのが正直なところです。

血統評価:C

ラップ適性:B

雨馬場適性:C

相対指数:E

騎手評価:B

厩舎評価:C

前走馬体重:486キロ

総合評価:D

・レッドモンレーヴ

父:ロードカナロア(欧キングマンボ系)

父母父:ストームキャット(米ストームバード系)

母父:ディーピンパクト

祖母父:トニービン(欧グレイソヴリン系)

エアグルーヴ牝系の良血馬ですが、
この牝系はマイルG1で勝ち馬が出ておりません。
特に東京マイルG1には10回出走して全滅しており、
もう少し持続力強化血統が欲しいところです。

本馬自身は、まだキャリアが浅く、
好走パターンを決めつけるのは危ういかとも思いますが、
血統構成からも実績からも「瞬発戦」が得意なタイプと
お見受け致します。

前走も1400m戦ながら、ペースは上がりず
前半3Fが34秒9に対して、上り3Fは33秒7の
後傾ラップの瞬発戦となっておりました。

逆に、ペースが流れた持続戦の秋色S(3勝)では、
ジャスティンスカイ(次走マイラーズC9着)に遅れをとっての
2着とパフォーマンスを下げておりました。

馬場は高速馬場の方が合っていそうで、
馬場が少し重かった共同通信杯では7着に負けております。

血統評価:C

ラップ適性:C

雨馬場適性:D

相対指数:B

騎手評価:D

厩舎評価:C

前走馬体重:504キロ

総合評価:C